



平成18(2006)年12月20日

第33号

世田谷稲門会  
 谷倉澤島原村内  
 世田谷区喜多見4-33-25  
 土細寺江岩大  
 邦利明秀  
 一勲夫次彦行

事務局 〒157-0067  
 東京都世田谷区喜多見4-33-25  
 川村保夫方  
 TEL/FAX 03-3417-7104

# 新年会 一月二十日に開催

## こまばエミナースで 直木賞作家・長部日出雄氏が講演

平成十九年新年会は一月二十日(土)五時からこまばエミナースで開催する。今回の講演者は直木賞作家の長部日出雄氏。演題はご本人の強い希望により『無題』。どんな話しが伺えるか、来場してのお楽しみとなりそう。

講演の後、懇親会・恒例のビンゴゲームなど楽しい行事が企画されている。また会場では今回も写真部会会員の作品が展示される予定。会費は七千円。

長部日出雄氏(おさべ・ひでお)



**略歴**  
 昭和九年青森県弘前市生まれ  
 昭和二十八年早稲田大学文学部入学(中退)。週刊誌記者、映画評論家を経て作家活動に

### 「大隈講堂」只今 “お化粧直し” の真っ最中 母校の今 -8-



昭和四十八年「津軽世去れ節」  
 「津軽じょんがら節」で直木賞受賞

昭和五十四年「鬼が来た 棟方志功伝」で芸術選奨文部大臣賞受賞  
 その他の主な作品は「見知らぬ戦場」(新田次郎文学賞受賞)、「風の誕生」、「天皇はどこから来たか」、「二十世紀を見抜いた男 マックス・ヴェーバー物語」、「桜桃とキリス

トもう一つの太宰治伝」(大佛次郎賞・和辻哲郎賞受賞)など。  
 太宰治の研究者としても知られ、また映画の分野では「夢の祭り」(平成元年)で製作・脚本・監督を担当した。現在世田谷区成城に在住。

十月二十二日(日)母校のホームカミングデー。久しぶりに訪れた早稲田の杜は全国各地から「馳せ参じました」調の校友の弾けんばかりの熱気に包まれていた。バスを降り、振り仰ぐ早稲田のシンボル・大隈講堂と時計の塔は、ご覧の通りの初めて目にする目下“幕間”で、“お化粧直しの真っ最中”といった風情!。  
 大学側の話では、来年迎える創立一二五周年の記念事業の一環として、時計塔をはじめ講堂全体の外観はそのままに、約三十億円をかけ内部を大改修、多機能型文化ホールとして再生するのだという。  
 果たして、大隈講堂は次のステージには、どんな姿で登場してくるのだろうか。誠に楽しみなことではある。

(記/撮 大内 秀行)

# ホームカミングデーの 早稲田キャンパス

十月二十二日(日)は母校のホームカミングデー。早稲田の杜は、全国各地から集まった校友達の活気と熱気に包まれていた。

バスを降り、現在工事中で工事用の白い覆いでスッポリ覆われた大隈講堂前を横切つて奥の大隈庭園に向かう。

当日、庭園にはわが世田谷稲門会をはじめ、都内各区稲門会の模擬店のテントが立ち並び、芝生には既に弁当を広

げ、馬手に缶ビール弓手に「焼鳥」スタイルで旧友と再会を喜び合う昔の早大生達の車座があちこちにてできていた。早速「世田谷稲門会」の旗を見付けて『焼鳥世田ヶ屋(?)』に直行する。

店はなかなかの繁盛ぶり。当会員で元キャンパスマドンナ(?)の面影を未だに止める女子のちよっぴり色っぽい呼び込みの声に、吸い寄せられるように客が次々とやって来る。役員、諸先輩の強力なフォロワーで、一本百円の焼鳥、一缶二五〇円の缶ビールがどんどん売れていた。

本格派「世田ヶ屋」の特製焼鳥肉を頬張り、よく冷えたビールの喉ごしを楽しむ。そんな秋の昼下がりの早稲田キャンパスに数十年前の自分を見つけた。そこで一句、  
・目閉じれば若き我あり  
杜は秋

(記/撮 大内秀行)



## 『稲門祭』報告

参加者は最高を記録した模様。世田谷の福引券販売数は二百十枚(四二万円)で二年連続割り当て数を完売し練馬、太田に次ぐ第三位だった。尚、全体では一万千二百枚(二千二百万円)となった。福引抽選では職域賞二名、ふるさと賞四名、校友会賞二名の計二十七名の方々が当たり、全て連絡の上、賞品は記念品共々お渡しした。  
\*模擬店の販売は二八万円を超え、出店区のなかでは最高額を販売した。

## シャンソン納涼会を楽しむ

八月十九日(土)午後六時からこまばエミナースで開催。

六十四名の会員、家族、ゲストが参加した。

鈴木宏治副会長の進行でスタート、土倉享一会長の挨拶、松本常男太田稲門会会長・東京二十三区支部長の来賓挨拶、新入会員の紹介のあと、

齊藤政二郎会員の乾杯の音頭でバイキング形式の会食に入った。

今回は元世田谷稲門会会員で教育学部英文科卒のシャンソン・タンゴ歌手杉村美恵さんをゲストとして迎え、昨年に続きシャンソン納涼を楽しんだ。  
最後は川村保夫副会長の中締めのもと、岩上健一副会長のリードで校歌を斉唱し、午後八時お開きとなった。



二三区支部大会 三月五日開催

〇六年度の『校友会東京都二三区支部大会』は三月五日(月)午後六時半からリーガロイヤルホテルで開催することになった。

白井総長・瀬下校友会代表幹事などが出席する。参加費は一万円。尚、講演者などは未定。

## 部会だより

### スポーツ観戦

平成18年10月28日秋の早慶野球1回戦を23名が参加して観戦しました。

既に今シーズンの早稲田は3季ぶり38度目の優勝を決めていましたが、早慶戦は絶対に勝って完全優勝を果す意気込みで臨んでいました。

しかし早慶戦だけは別もので、試合は慶應エース加藤が反撃するスキを与えない好投で早稲田は1対5の苦杯を喫しました。終了後は予定の祝勝会を残念会に変えて外苑前の増田屋で懇親会を行いました。会場には祝勝会の慶應OBのグループがいて早慶の校歌とエールを交わし、珍しい歓談会でした。しかし勝負は勝たないと本当の喜びはありません。

来春は早慶戦に勝って完全優勝を期待しています。

尚スポーツ観戦部会では12月3日の関東大学ラグビー対抗戦グループの最終戦である早明戦を観戦しました。  
(岸田 正和/記)

### 釣 り

- 6月25日 銚子八女丸より飯岡沖キス釣り、6名参加。天候良く波もなく、ジャンボキス、大型カレイを釣る。
- 7月30日 銚子八女丸よりキス釣り、5名参加。強風で潮も早く、全く釣りにならなかった。1人10数匹の不漁。
- 8月5日 溪流釣り。地藏堂川で45センチの大イワナ釣る。
- 27日 茅ヶ崎おだか丸よりワカシ釣り、4名参加。狙いのワカシはあまり釣れず、35センチソーダ鯉満杯。
- 9月10日 銚子八女丸よりヒラメ釣り。成田氏のみ1枚。
- 10月29日 ハゼ天ぷら船、門前仲町富士見より出船。14名参加。天候も回復、好天となる。木更津港内にて良型のハゼがほほどにつれた。船上にて揚げたての天ぷらを賞味、土産に名物のあみの佃煮をもらう。
- 11月5日 銚子ヒラメ釣り、3名参加。成田氏のみ1枚。
- 11月25～26日 熱海初島磯釣り。リゾートホテル・エキシブに宿泊。7名参加。メジナ・タカベ釣り。
- 12月3日 勝浦イサキ釣り。喜美丸にて出船。1万500円。
- 24日 茅ヶ崎おだか丸より鯛五目釣り。8,000円。
- 19年1月19日 新年会 中華海老専家(飯田橋) 4,000円。
- 1月28日 久里浜カワハギ釣り、あるいは茅ヶ崎鯛五目釣り。

(柴田 昇/記)



### ボウリング

当部会も平成8年9月に発足して以来、早や10年を経過、引き続き渋谷稲門会と合同して世田谷オークラブオウルで毎月1回例会を開催し、投球を楽しんでいます。

最近の活動実績は次の通りです。

- 8月27日(日) 参加者8名。148点武藤哲、136点佐山順孝、133点加藤隆夫  
真夏のせいか参加者少なく、ボウルも思うように伸びず、総じて低得点。
- 9月24日(日) 参加者16名。203点江口力、169点風間穰、164点斎田祐二  
江口さんが6連続ストライクという大会新記録を樹立し久しぶりの200点突破、お見事！  
初参加の風間さんも平成7年卒という若さで力強い投球を見せて高得点、今後のホープ。
- 10月29日(日) 参加者10名。157点江口ともみ、142点新井武、129点江口力  
マスコミ、芸能関係で活躍し名声を高めている江口さんの息女ともみさんが特別参加。華麗なる投球、ミスしたときの愛嬌もたっぶり、得点も最高点にはビックリ。和やかな楽しいひとときでした。

ボウリングは男女、年齢に関係なく誰でも誰にでも手軽にできるスポーツ。健康増進、ストレス解消にも最適。さあ皆さん、思い切って初めてみませんか。  
(武藤 哲/記)

## ウォーキング

10月25日(水) 前日の悪天候が一転して暖かい日となる。

秋季遠出例会として湘南三崎口に集合ということで、品川より京浜急行に乗る。そして三崎港を出発点として「城ヶ島」を訪れた。10月も終りに近いというのに海の色は明るく穏やかだ。

事前に現地を訪れ、事細かに調査の労をとって下さった世話人の方のお蔭で、まぐろ専門のお店に入ることが出来た。折角の機会なので、まぐろ中心のお昼を夫々が選び大いに楽しみ満足する。

すっかりエネルギーを蓄え、島をつなぐ橋をバスで15分位で城ヶ島へ渡る。先ず城ヶ島を一躍有名にした北原白秋の博物館を訪れ、白秋の「雨が降る降る城ヶ島の磯に・・・」を始め「からたちの花」など数々の大正・昭和初期の懐かしい詩・歌を白秋の自筆の原稿で見る。我々が育ってきたなかでの代表的な日本の歌を今一度口ずさんでみて、白秋が我が稲門の先輩でもあったことを心から誇りに思った次第。美しく整備された丘を歩いて360度見渡せる展望台に登って、何時までも晩秋の穏やかな陽を浴びて輝く海と広がる岬を眺めていた。

約4Km弱の三浦半島最南端のハイキングコースを歩いてまたバスに乗って三崎の魚市場に寄り、お土産を買って帰路につく。

参加者10名

(寺澤 隆夫/記)

## 食べ歩き

(1) 9月29日(金) 第29回例会を開催。参加者24名。今回は京王線八幡山の「名菜館」で本場上海の中華コース料理を賞味した。渡辺八郎氏の司会で進行。大須賀肇代表世話人より挨拶並びに会務報告があった。その中で平成17年度当部会の事業報告、監査報告(各資料は8月中旬全会員60名に送付済み)が提案され、満場一致で承認された。

続いて今回の例会設営に尽力された水島豊氏より店の経営者や味の紹介があり、鈴木宏治副会長が10月22日の稲門祭への世田谷稲門会の対応(模擬店出店等)や福引券の割当目標の大幅達成に対する謝辞等を述べた。83歳とも思えぬ元気滂刺な保倉進氏の発生で乾杯、懇親会が開宴した。各テーブルとも上海の「コース料理」を堪能、褒出し紹興老酒の美酒に酔い、歓談は尽きず大いに盛り上がった。

いつしか閉会の時刻となり、岸田正和氏の中締めの挨拶で名残を惜しみつつ散会した。参加後は三々五々付近の世田谷文学館や徳富蘆花が後半生を過ごした芦花恒春園等を訪れ、文化の香りに触れることが出来た。



(2) 部会内規第5項有志世話人による会合。

① 5月6日「東京競馬観戦会」参加者27名。

② 8月13日「東京湾花火船上鑑賞会」参加者22名。「新一会」、「二八会」と合同稲門の集い)

③ 8月13日～19日「神秘の世界遺産・黄龍・九寨溝を訪ねる旅」参加者40名(日中友好協会主催)

(大須賀 肇/記)

## 麻雀

当部会も発足以来8年、会員の皆様の暖かいご支援を得て、着実に活動を広げております。

1. 8月26日 盆明けの残暑の中、世田谷、目黒、渋谷の自称猛者が32名集い、当部主催で開催した。当区は前回に続き他2区を圧倒した。当区関係者の成績は次の通り。優勝・草野昭次、準優勝・武田一成、6位・池田良夫、8位・上保幸夫、12位・河村卓郎
2. 9月9日 残暑厳しき中、24名の善男善女が集い、熱戦を繰り広げた。優勝から4位までの差が7点という混戦だった。優勝・脇坂元彦、準優勝・草野昭次、3位・郡山弘文、4位・上保幸夫、5位・国澤俊一、6位・河村暉子
3. 10月15日 夏を思わせる日、24名が集い闘った。池田氏が毎回トップ、2位の倍以上の得点で初優勝した。優勝・池田良夫、準優勝・江口力、3位・河村卓郎、4位・阿部信之、5位・有利純太郎、6位・磯田稔
4. 11月11日 本年3回目の3区親善麻雀大会を目黒主催、参加者36名で開催。当区は3回連続優勝者を出す栄誉を担った。当区関係者の上位陣は次の通り。優勝・江口力、3位・上保幸夫、4位・原明、11位・下谷内堯
5. 11月12日 前日に続いての月例会となったが、24名が参加し、激戦を展開した。試合は木村氏が2位以下に大差をつけて久しぶりに優勝した。優勝・木村滋、準優勝・秋元孝禧、3位・秋元信之、4位・下谷内堯、5位・草野秋次、6位・脇坂元彦

なお、当部では入門講座を開催しておりますので、これから麻雀を始めようと思っておられる方は奮ってご参加ください。

(下谷内 堯/記)

## ゴルフ

平成18年度のゴルフ部会コンペも、今回ご報告する秋の2戦をもって無事に終了することが出来、会員皆様のご協力に厚く御礼を申し上げます。来年の開幕戦は第50回となる記念すべき会となります。どのような趣向をこらすか、現在世話人一同知恵を絞っておりますので楽しみにして頂きたいと思ひます。

さて、第48回コンペは9月15日（金）足柄森林CCにて行われました。前日まで降り続いていた秋雨も上がり、曇天ながら残暑も感じない秋らしいすがすがしい一日となり、ゲストも含め44名により熱戦が繰り広げられ、レディスの方々が活躍をされ一段と盛り上がりを見せました。

優勝者 総合：村松久子さん、Gシニア：柴田昇さん、  
シニア：吉村豪介さん、レディス：沼田宣子さん

続きまして、今年度最終戦の第49回は11月16日（木）に名門飯能GCにおいて行われました。秋らしい少しひんやりとした晴天のもと、39名の方々が優勝を目指し腕前を競いました。その結果次の方々が今年度のフィナーレを飾られました。

優勝者 総合：森 昌治さん、Gシニア：佐藤喜重さん、  
シニア：長谷川宏さん、レディス：田村紘美さん

競技終了後のパーティーでは、表彰・優勝者スピーチ等参加者全員和気藹々と過ごし、今期を締めくくりました。また、来期開幕戦となる50回記念大会は、平成19年4月6日（金）中津川CCで開催することとなりました。

(熊谷 慶紀/記)



(左より 沼田さん、松村さん、柴田さん、吉村さん)



(左より 長谷川さん、田村さん、佐藤さん、森さん)

## 写真

写真部会は現在年10回の例会を開催しています。例会では作品をプリントして白板に磁石で抑えて貼り付けます。寸法はA4判が中心で、2L判やA3判もあります。大体6点ぐらい披露され、皆様のご意見を聞くこととなります。銀塩フィルムもデジタルも同じ方法です。最近は外国旅行の写真も多くあります。ほぼ月1回の例会は結構厳しく、新しい作品を用意するには撮影をしないと作品を出せません。しかし皆さん勉強熱心で、作品を撮っておられますが、作品は無くても参加されます。そして例会終了後の昼食会で写真談義に花を咲かせます。話題豊富で楽しい会となっています。

今後の予定は次の通りです。例会は毎月第3木曜日で、2月、8月は休会です。

日程：11月16日（木）、12月21日（木）、1月18日（木）

3月15日（木） 2月は休会。

例会時間の変更：会場の都合により「9時30分～12時00分」に変更。

(種谷 鴻成/記)

## カラオケ

9月18～19日の両日、当部の特別行事として温泉と観光付きの「カラオケ旅行」を行いました。目的地はお湯と歴史の里、伊豆長岡。宿は世田谷区指定の保養施設「三溪園」。参加者は長老・内藤氏（101歳）ご夫妻はじめ15名。宿到着後はまず名湯アルカリ性温泉でお肌を磨いた後、夜の宴会では宿自慢の季節料理と地酒を堪能、余興の「ご当地クイズ」では、犀川さん、川井さん、内藤さんが入賞、お土産をゲットされました。その後はいよいよカラオケタイム。宿のサロンを借り切って一杯やりながら各自持ち歌を披露、最後は全員で校歌を斉唱し締めました。



平成18年9月18日 於 伊豆長岡温泉 三溪園

翌日は朝食後、希望者による周辺の観光に出かけました。宿の専用バスで博物館や美術館を楽しみ、その足で世田谷に帰着、無事散会しました。

当部会の来年の予定は次の通りです。

- 19年1月：新年会
- 3月：例会
- 6月：例会
- 9月：カラオケ旅行

(蒲原 信一/記)

## ブロック会だより

### 玉川

「カラオケを楽しむ会」がスタート！ 玉川会は10月7日（土）、第1回“カラオケを楽しむ会”を開催した。当日正午、田園調布駅改札口に集合した参加者は、会員の奥様お三方を含む15名。

まず、同町のそば処「おおたにや」で顔合わせを兼ねて昼食をとる。その後、同店のビルの地下にある



ミュージックパブ「羅饅茶（ラ・マンチャ）」に移動し、早速カラオケを楽しむ会を開会した。広々とした店内で、およそ3時間半、とにかく歌いまくる。一人平均3曲ほど自慢の美声を披露。中にはプロ級の人もあり、大いに盛り上がった。そして、最後に全員で校歌を声高らかに合唱、4時半過ぎ盛會裡に閉会となった。

(大内 秀行/記)

### 西北

第13回目を迎えた西北会は、12月5日（火）、一ツ橋会館の「喜山倶楽部」で藤井秀彦氏（29年政経）に「ビール雑感」と題し講演を頂きました。

ビールの歴史から始まり、日本のビール会社の変遷、ビールの税金さらには酒税法の噛み砕いた解説、世界各国のビール事情、最後にビールと健康と大変蘊蓄のあるお話を興味深く伺う事が出来ました。特にビール大好き人間の私としては、これからまた一段と美味しくビールを飲めると心強く思った次第です。そして料理は美味しい和食を食し盛會裡に散会しました。

今回は藤井氏が喜山倶楽部の役員をされている関係で、大サービスをして頂きました。講演の御礼と共に紙面をお借りして御礼申し上げます。次回は矢島氏が宮司をされている北澤八幡神社に新年に参拝予定です。

(松浦 晋三郎/記)



### きぬた

初冬のおだやかな土曜日（11月18日）地元の成城地区の見学と食事の会を行いました。午前10時、新装なった成城学園前駅（コルティ）に14名が集合。まず北口側の成城5丁目の猪股邸（吉田五十八設計）を、ボランティアの説明を聞きながらゆっくのと見学しました。旧柳田国男邸（緑蔭館）を経てコルティに戻り、ここで2名が合流し、イタリアンの昼食・懇親会となりました。この席でブロック会幹事を新たに吉村豪介・高橋毅・河村卓郎・川村保夫の4氏にお願いし、寺澤・宮木の2名は退任となりました。



午後からは南側へ廻り、世田谷区文化財となっているカトリック成城教会（故今井兼次＝稲門出身・理工学部教授＝設計）を見て、世田谷美術館分館の清川泰次美術館を学芸員の解説付きで見学し、午後3時に解散しました。きぬた会では今後も、こうした地元密着型やブロック会員主体の催しを続ける方針です。

(宮木 甫/記)

## さくら

第10回世田谷稲門会さくら会は平成18年10月1日(日)11:30AM、桜新町イタリアンレストラン「ラ・ピアンタ」にて開催。鈴木幹事長の参加を含めて総勢20名が出席。

平成16年3月21日の総会で、世田谷稲門会のGブロックとして発足した本会はその後さくら会と名称を変更。会を重ねる毎に順調な発展を遂げ、約2年半を経過。その間多くの方が入会され、登録メンバーは67名に達している。

現在の世話人は(代表)矢田廣、(事務局)若林昭男、(会計)江原利次、(監査)荒井清の4人体制でさくら会の運営にあたっている。

年4回の懇親会の外、文化的活動としては高橋悦男早稲田大学名誉教授の指導のもと、さくら会の中に俳句の会を設立、毎月1回、主として桜新町の区民集会所で句会を開いている。その活動は既に1年になろうとしている。メンバーの作った俳句の内、高橋先生の推薦を得たものについては、その都度次のさくら会で江原世話人より皆に披露されている。

更にもう一つ、古美術古建築等を勉強する古美術古建築勉強鑑賞会を発足させた。この11月23日講師の佐々木恵美子氏を招いて第1回目の古美術古建築の講座を開くことにしている。勉強をしながら、今後徐々に美術館、博物館巡り等の企画も加えてゆきたいと考えている。ある程度の人数が纏まれば入館料も団体割引になり、かつ、美術館の書記や司書がついて説明してくれることも可能である。

今年に入ってからさくら会の活動状況はメンバーである岡村喬生氏のオペラの鑑賞会を3月に、又、能の鑑賞会を5月に、次いで、国会の見学会を6月に行った。

朗々たるオペラの世界に浸り、一方、幽玄の能の世界に足を踏み入れるのも又楽しからずやである。能には5流あり、出し物は今回観世流の高砂やであったが、松を中心とした霊界と人間との対話があり、奥が深くなかなか趣である。

今後とも文化芸術鑑賞の輪を少しでも広げてゆきたいと思っている。以上文化芸術鑑賞にご興味がある方はご一報下されれば幸いです。

(矢田 廣/記)



## けやき

11月17日(金)、本年度第2回目の会合を岩上健一、細澤勲両世田谷稲門会副会長のご来席の下、経堂の「かごの屋」2階で開催した。出席者は26名。まず出席者全員の自己紹介の後、アルコールを飲みながら永井健一早稲田大学及び法政大学名誉教授のユーモア溢れる名講演に会場は義憤と感嘆と爆笑に包まれた。出席者は現代の学生気質の一端を垣間見ることが出来た。

広い会場は参加者の熱気に包まれ、予定時間を1時間オーバーし、岩上副会長の音頭による校歌斉唱で名残を惜しみつつ、次回開催を約して散会した。

(下谷内 堯/記)

## キャロット

ブロック会企画の「稲門寄席」を無事に打ち上げることができました。

9月9日(出)、三軒茶屋「黄龍」に於いて、参加者15名で暑気払いを兼ねて「稲門寄席」の収支報告会を行いました。(240席完売で収支は黒字になり胸をなで下しています)。席上、富塚兆弥さん(昭和41政経)から「楽屋ウラ嘲」、東直彦さん、(昭和41理工)から「カンツオーネ・ナポリターナの世界」阿部俊夫さん(昭和35政経)から「台湾事情」など、蘊蓄を傾けて頂きました。



小生、三人の多芸多才ぶりに感心しているうちに予定時間が過ぎてしまい「都の西北」を東さんのリードで斉唱する楽しみを次回に持ち越すことになりました。

(萩原 健/記)

# 「会員のひろば」

## 世界マスターズ

### 柔道大会随行礼記

熊谷 慶紀（昭和三八政経）

思い起こせば十四年ぶり六回目の訪仏だった。前回は深夜便でナイロビの夜の闇から不夜城のパリへと到着、胸躍った記憶が鮮明によみがえってきた。これまでの旅はすべて出張上のトランジットのみ、ゆっくりする間もなく次の目的地へと飛び立っていた。今回はフランス中部の古都トゥールで開催された第八回世界マスターズ柔道大会の選手と共に応援団として随行礼した。

随行礼の我がグループは同期の元柔道部員小倉好文（政経）及び木村正邦（商）両君ご夫妻と、どう言うわけか奥方に同行願えなかつた小生と荒川益治君（商）を加えた六名。選手の方々には誠に申し訳なかつたが、大会は半日程の応援でご容赦を願ひ、チャンスはそうそうないぞとばかり世界遺産・美術館巡り、ゴルフ、グルメにと昼夜をかけて大車輪の二週間だった。

一団は猛者ぞろいだが、ガイドが感心するほどアカデミックな日々であった。なにしろ「セザンヌのアトリエ」、「シャガール美術館」、「オルセー美術館」、最後は「ルーブル」と息つく暇もなく美術教科書を目の当たりにした毎日であった。

我が柔道部の多くの諸先輩の方々が「柔道」を世界に広め今日の礎となつている。中でも現在世界で一番柔道が人気スポーツとなつ



ているフランスでは、NHKの「とんち教室」でユーモア溢れる回答者だった石黒敬七八段が、大正八年から十年にわたり指導を行い、また盟友である藤田嗣治画伯（二段）を相手にパリ・オペラ座の舞台で柔道を披露したことは未だに語り継がれている。

今回フランス訪問のチャンスを与えてくれたのは、同じく同期でこの選手団名誉副団長を務めた安本總一君（法・主将）だが、彼も卒業後すぐ柔道指導のために渡仏し、フランス柔道会に多大な貢献をしており、彼のアレンジによりマスターズ大会終了後、各地の柔道クラブとの親善交換会等貴重な体験をさせてもらった。また、リヨン、アルル、エックス・プロヴァンス、ニース等中・南仏を訪ね「夏のバカンス」を満喫した旅でもあった。

日本選手団最高齢は八十一歳であったが、選手諸兄は来年のブラジル開催を視野に新たな挑戦を始めており、小生も試合を見ては「血湧き肉躍る」が、思いはそれまででゴルフにいそしむ今日この頃という次第である。

小学校一年生の夏、祖母の安房天津の別荘に一族の子供らが集まり、海水浴を楽しんだ。ある日、三歳年上の従兄と沖へ泳ぎ出て黒潮の流れに入ってしまった。従兄は抜け出たが、私は力無く暖かい黒潮に浮いているしかなかった。漁船が見えたので、赤ふんどしを脱いで振ったが、助けられず、去ってしまった。

その後、助けの船が来てくれたが、船に上げてくれず、大竹を海に投げ入れ「掴まれ」と言う。掴まったまま天津港に帰った。祖母から大目玉を喰ったのは言うまでもなく、以後泳ぎはご法度となった。そこで致し方なく堤防での釣りを始めたのが、我が釣り人生の始まりである。

## 我が釣り人生

柴田 昇（昭和二九年商）

府立六中では新宿御苑の一角にあり、池で盗み釣りする悪友から徹底的に釣りを教え込まれた。この釣り狂いは、その後、東大の教授となったが、五十年後に会った時は釣りを止め、つまらない人間となっていた。しかし教え子のA君

とは今でも銚子へヒラメ釣りに行っており、昨年も七十七センチのヒラメを三枚も釣った。サラリーマン時代に商社から転勤した石油化学メーカーは臨海地区に有り、釣りを始めることが出来た。早速釣り部を発足させた。海に向かつてのキャスティングは魅力があるのか、部員百名の最大同好会となった。別に社外の方々も入れて釣り倶楽部もつくり、伊豆の大島へ毎週末通った。

しかしその後、M大手化学会社へ出向を命じられ、東京のど真ん中での仕事となった。出向先は釣り部ご法度で、釣りをやる私にゴルフをやれと





無理強いする。ついに我慢できずに退職願いを出したが、出向中は認めてもらえなかった。やっと出向も終わり、退職することが出来た。その後、自分の会社を設立し、天下はれて自由に釣りが出来る身となった。

東伊豆、鹿嶋に別荘を持って磯釣り、投げ釣りを堪能するようになったが、ある日狩野川の支流で釣った黄金のアマゴに魅せられ、以後溪流釣り中心となった。

昨年亡くなられた加藤須賀雄先輩からも、また日本有数の溪流釣り師からもご教授いただき、ここ十数年溪流釣りを楽しんでゐる。今年も四十五センチのイワナを釣り、記録も更新した。

世田谷釣り部員も二十八名になり、毎月一回の沖船釣り、磯・溪流釣りも随時行っている。初心の方も増えてきているので、なるべく釣りの良さ、楽しさを解ってもらえるようお世話していく心算でいる。新鮮でヘルシーな魚を賞味し、多く釣れば、出来る限りお配りしていく所存です。

### 小学校五年生、ボクは野球ファンになった

吉村 豪介 (昭和三四教育)



敗戦後 間もなく、昭和二年の四月末から五月初め

だったかの日曜日、文学部文科に在学中の従兄弟が、「ヤキューを観に行かないか」と誘いに来た。両親も「それは良い機会：」と喜んで送り出してくれた。

サテ、当時のボクの野球知識というものは、一回に三人アウトすれば攻守交替それを九回戦って点の多いほうが「勝ち」だ、程度のものであったと思う、一〜九までの数字がどういふ意味なのかさえ知らなかったのだから：

とにかく後樂園に着いて(神宮球場は接収中)ワセダの学生席に入った、大観衆だ。初めて見る野球場、順序良く行われる試合前の打撃練習・守備練習、どれもが初めてで、ボクはもう感心して見ていたに違いない。それにしても、一年半前までは大戦争、戦争

後はヒドイ食糧難だったというのに、選手たちが整然とプレイ出来たのが、今思うと不思議な気がします。

今回の相手は帝大、リーグ戦が再開された前シーズンは二位、両山崎に、井波・西村・木暮等の好選手がいて、言っちゃ悪いが、今の東大の比ではない。(これらのことは、このゲームを見てから学習？したことで、真に「百聞は一見に如かず」だと思ふ)これに対する早大のオーダーは、何にも知らないから、ラクに

山田 山本村川 里崎  
蔭 鶴片岡 山 穎 中南岡

6 5 7 1 9 4 2 3 8

勝てるのかと思っていたら大間違い、七回か八回に四対四(だったと思う、興奮して正確に憶えていない)と追いつかれ、しかもエース岡本が故障、新人の荒川が救援に立って五対四(延長十回?)で辛くも振り切って漸く勝ったという試合だった。

ボクはもうドキドキしながら、プレー・ボールの前、ラッキー・セブン、そしてゲーム・セット後と学生席で懸命に『都の西北』を唄った。

間違いなく、無意識に行ったイトコのリクルート活動(そんなコトバは、当時なかったけれど)は大成功だったといえよう。

そして、ボクはたちまち「野球ファン」になったのだった。母の親友、Nサンの夫君(ボクや兄から言うところ「Nさん家のおじさん」)は、昭和初期の「東京六大学野球」で、通算三十四勝だか五勝を記録した明治の大エース、戦後は長い間、「社会人野球協会」の理事を務められていたということだったが、ボクらは、シーズン毎に、「六大学」と「都市対抗」の入場券を頂いていた。

そのはじまりが、同じ昭和二十二年の「都市対抗」、まだまだ本来の理念が生きていて、オール大阪・オール神戸・函館オーシャンクラブ・横浜金港クラブ等々都市名が優先されていた。「六大学」やその他の大学・高専OBたちのプレイを観ることができたのは大変楽しかったが、炎天下の後楽園で一日四試合も観戦してよく熱射病に掛からなかったものと思う。

「六大学」の方はといえば、それからの数年間は「神宮」が

使えても試合開始が午前中だとか、或いは西武線「上井草球場」また、調布の「明大球場」とか転々とする中を追いかけて観たものだった。

同じ年に、プロ野球も観にいくようになった。「ダイナマイト打線」のタイガースが優勝した非常に強い年で、これも初めて観に行った巨人・阪神戦では、巨人の投手陣が、四番・藤村のホームランを含む猛打を浴び壊滅、八対二だか三だかで大敗したのも忘れられない。

六大学・都市対抗、そしてプロ野球を見始めた「昭和二十二年」それはホク個人にとつては「野球」が生活の中の大きな部分を占めるようになったという点で、大変革の年だったと考えている。

「会員のひろば」「会員動向」原稿募集

会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしています。題は自由です。なおご希望があれば会報編集者が取材して原稿にまとめます。ご連絡ください。

(会報編集幹事一同)

## 新入会・休会・退会及び変更・訂正事項のお知らせ

「名簿（平成16年4月発行）・会報32号以降及び名簿（平成18年4月発行）記載事項」

(新入会員)

氏名	卒年	郵便番号	住 所	電 話	FAX
千葉 里奈	平8 法				
山元 征機	昭40 法				
山本 正記	平4 商				
神保 利彦	昭44 教育				
近堂 和明	昭47 商				
風間 穰	平7 政経				

個人情報につき不掲載

(退会会員)

氏名	卒年	退会理由
木村 靖	昭26 政経	
志村 光一	昭19 商	
白木 武	昭37 教育	
田中 裕幸	昭23 政経	
留川亜矢子	平3 教育	
安海 将弘	昭59 商	



© WASEDA UNIV.

(変更・訂正事項)

氏名	卒年	訂正事項
小林 浩	昭49 理工	
山根 基世	昭46 文	
木村 次朗	昭32 政経	
高橋 悦男	昭32 文	
下谷内 堯	昭37 政経	

## 編集後記

右記の通り、今号から新たに二人の編集委員に参加していただきました。

それぞれこれまで出版関係の仕事をされていたベテランです。これからは編集企画にも参加していただき紙面の一層の充実をめざします。これからもご協力宜しくお願いします。

(細澤 勲)  
(江原 利次)  
(寺島 邦夫)

昭和39年法学部を卒業。早稲田の縁で、某バルブメーカーに入社、37年ほど勤務した後、同社を円満退社、同時にバルブ業界唯一の月刊業界紙発行の仕事に転じ現在に至っています。



在職中の平成7年に腸に癌が見つかり、同年5月に一回目の切除手術。その8年後の平成15年、転移性再発肝臓癌により二回目の切除手術、とそれぞれ6時間の手術を二回うけました。幸い、その後は再発転移などは無く、現在は普通の生活を送りながら、第二の人生を大いに楽しんでいます。

このたび、誠に微力ながら、当会報の編集のお手伝いをさせて頂くことになりました。今後、当会報の内容の更なる向上・充実のためにお役に立てるよう努力してまいります。何卒宜しくお願いいたします。

(大内 秀行)

会報編集をお手伝いすることになりました。会員間の交流促進・読まれる会報づくりに微力を尽くします。



昭和39年政経卒、新聞社で地方・海外・マクロ・ミクロ経済などを取材、関連会社を経て昨年春、退職しました。

現在は週の半分ほどアルバイト的な仕事をして、あとは小旅行や、世田谷区から借りた畑で野菜作りを楽しんでいます。よろしくお願ひします。

(岩村 明彦)